

千年の歴史と結びつく新しいフォルム

シャンパンクーラー “Shizuku (しずく)”

圧倒的に美しいフォルム。そこに挿されるシャンパン・ボトルとの調和。シャンパンクーラー“Shizuku (しずく)”は、伝統と現在が織り成す驚きのアイテムだ。プロデュース・販売元のリンクアップ代表の今井雅敏は語る。「消えていく日本の文化があります。それはたいへん悲しく、もったいないこと。私どもの会社では、京都の伝統・文化を今に結

びつける商品のプロデュースをめぐらしてあります。かつては京都には250軒ほどの桶をつくる工房が軒を連ねていました。それが現在はずか数軒。その技術を何かに使えないかと考えたときに、出てきたのが、シャンパンクーラーというアイデアでした」
作るのは、平安時代に起源をもつ京指物の伝統を受け継ぐ中川木工芸。



シャンパンクーラー“Shizuku (しずく)”

定価：68,250円(税込) (写真左は“Misumi (みすみ)”71,400円(税込))

問い合わせ：リンクアップ <http://www.l-u.co.jp>

「先代の中川清司氏は人間国宝『木工芸』に指定された、日本を代表する名工です。三代目の中川周士氏にシャンパンクーラーの製作をお願いしました。現代アートやデザインを勉強されていて、それがこうした新しい感性を生んでいると思います」
楕円形の木製のフォルムに銀の箍(たが)が引き締まるデザインは、優しさとシャープな感覚を見るものに同時に与える。
「この楕円形というところにこだわりました。円形は形が安定しているのですが、楕円形はたいへん難しい。先端をとがらすこのデザインを実現するために、一年半、試作を続けました」
微妙なカーブを実現するために、使われるカンナの数は実に200丁に及ぶという。桶は金属の釘を用いず、木材を組み合わせることで造形させる技術「指物」という木工の技術で作られている。

品質の高い樹木である証明です」
木ならではのシャンパンクーラーの良さもあるという。
「金属製のものには水滴が付きやすいのですが、木製なので付きにくいという特性があります。また、保温性にもたいへん優れています」
2010年に発売、直後から大きな反響があった。
「ドン・ペリニオンからお話をいただき、数量限定でお取り扱い頂きました。多くのレストランでも現在使っていただいております。京都では阪川、じゃ宮やわ、sayura(バー)、東京では井雪、ニューヨークではDrusu stokeなどで使われています」
今後はどのような展開をめざしているのか。
「現在、つくられているものが100年後、200年後のスタンダードになると考えています。文化とはそういうものではないですか。だからこそ、いま、作らなければいけない。京都の伝統・文化を継承した新しいものを生み出し、次の世代に伝えていきたいと思っています」
伝統に触れ、そして、今まさに新しい時代のはじまりに遭遇しているのだ。